

R6年度 小学生版機関紙 授業での活用例

★本機関紙は上下で構成が分かれております。防災マークについて知り、自分と他者のいのちのためにできることを学び、考える機会に、本紙を道徳の授業や防災学習等でご活用、ご紹介ください。

《ねらい》

- ・防災ピクトグラムを事例に、必要な情報を多くの人が簡単に利用・理解できるための工夫に気づく。
- ・本教材をとおして防災について関心を持ち、地域にはいのちを守るためのヒントがあることに気づき、他者のためにどんな工夫ができるか、自分にできることを考える。

《展開案》

- ① 機関紙の上半分を用いて、地域にはいのちを守るためのマークがあることに気づき、それぞれ何を伝えているのかを考える。また、これらのマークはなぜあるのか、マークがあることで、どんな人に情報が届くかを考える。



例：どうしてマークがあるんだろう？

→災害時や非常時に危険な場所や避難すべき場所を分かりやすく伝えるため。

日本語が分からない人や小さな文字を読むのが大変なお年寄りはどうかな？

→マークがあれば年齢や言語の壁を越えて、誰もが直感的に理解できる。

- ② 機関紙の下半分を用いて、災害時に備えて、自分と他者のためにどんな工夫ができるか、自分にできることを考える。

いま みんな
今からできることを考えてみよう！



しらべ
● 学校やうちの近所は？
地域の危ない場所を知ろう



つた
● 家族や友達にも
教えてあげよう



そな
● 災害に備えるため
何ができるかな？

指導者の皆様へ
平時から防災マークを学習し、地域の災害リスクを知ること、災害時に自分と周りの大切な人の命を守ることができます。防災意識を高め、周りの人を思いやることの大切さを学ぶ機会に、本紙を道徳の授業や防災学習でご活用、ご紹介ください。






日本赤十字社は、日本赤十字法に基づき、国際赤十字と国際赤十字連盟に加盟する公益法人です。日本赤十字社の活動は、日本赤十字法に基づき、国際赤十字と国際赤十字連盟に加盟する公益法人です。日本赤十字社の活動は、日本赤十字法に基づき、国際赤十字と国際赤十字連盟に加盟する公益法人です。

例：ハザードマップ等を用いて、地域の危ない場所や防災マークがある部分を調べる。
隣りのお友達やおうちの人と、災害時の危ない場所や避難すべき場所を共有する。
災害時に備えるために他に何ができるか考える。(非常持ち出しバッグを作る等)

- ③ 今の学びや活動が、災害時や非常時に自分と周りの人のいのちを救う。自分にできることは微力だけど無力ではない。学び、伝え、行動しよう。